

新型インフルエンザ

いつもの年なら、インフルエンザはもう終息しているはずなのに…。季節性のインフルエンザ(鳥インフルエンザ)ばかりでなく、新型インフルエンザ(豚インフルエンザ)が発生し、世界的な問題となっている。まずは感染の拡大防止が大事である。人間の叡智は新たな感染症を克服できると信ずるが、地球環境の変化(悪化)など、人間のひき起こしたことが関与してはいないか？

院長 小川洋史



写真：シャンゼリゼ大通りの夜(パリ) 撮影：小川洋史

関節リウマチの新しい治療法

整形外科医師 舟橋 康治

関節リウマチとは

根本的な原因は未だ不明ですが、外部からの異物(ばい菌など)に対する防御機構である免疫の変調をきたし自分の関節に炎症を起こし、破壊してしまう病気です。その代表的な症状として関節のこわばり感や左右の関節(主に手首や指)に痛みや腫れがあります。

関節の障害

関節に生じた炎症は関節を壊していきます(関節破壊)。痛みや腫れはすぐに分かりますが、破壊によって生じる変形や機能障害は少しずつ進んでいき、自覚する頃にはかなりひどくなっている場合があります。痛みや腫れなども重要な症状ですが、機能障害の結果としての日常生活動作の制限(家事・仕事が出来ない)は深刻な問題です。最近の調査で関節破壊は、発病して2年以内がもっとも急速に進行すると言われています。重度の進行は、加齢による筋力低下とあいまって、車椅子の生活・寝たきりの状態に至る危険があります。

TNFとIL-6

病気の原因は解明されていませんが、TNF^{*1}やIL-6^{*2}という免疫に関わる物質が炎症を引き起こし、関節に悪さをしていることが解ってきました。従来の消炎剤(いわゆる痛み止め)は、関節にある炎症を抑える働きをしますが、炎症が出現した時点で関節に既に害を与えています(消炎剤では病気の進行は抑えられない)。TNFやIL-6などを抑えることは、すなわち炎症が出現する前の段階に作用し、関節への害を最小限にします。

※1:TNF:テューマー・ネクロシス・ファクター ※2:IL-6:インターロキニン-6

#IOSPY #IOSPY #IOSPY #IOSPY #IOSPY #IOSPY #IOSPY

2009年7月1日発行 編集:健康ネットワークいきいき 名古屋市瑞穂区玉水町1-3-2 新生会第一病院 TEL:(052)832-8411

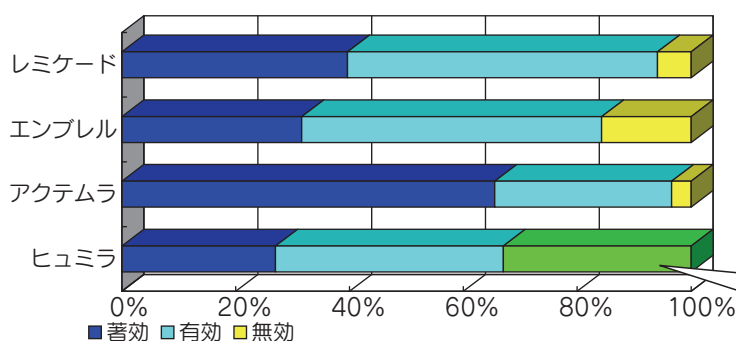
最近の治療法

この10年程の間にTNFやIL-6を抑える薬の開発は実用化に至り、関節リウマチの性質上、「関節破壊を起こさないよう、より早く、より強力」という治療目標が推奨されるようになりました。この治療目標を可能とした薬が日本では4種類使用可能となっています。

薬	レミケード	エンブレル	アクテムラ	ヒュミラ
使用可能時期	2003年7月	2005年3月	2008年5月	2008年7月
作用点	TNF	TNF	IL-6	TNF
投与方法	点滴静注	皮下注射	点滴静注	皮下注射
投与間隔	8週に1回 最初は2~4週間隔	1週に2回	4週に1回	2週に1回

薬の効果

これまでの抗リウマチ薬の代表となるリウマトレックスでも改善の見られる率は30~60%で、関節破壊は完全に抑えることができないとされる一方で下記の薬剤は60~90%の方が関節破壊の進行の制御と症状の改善効果を得られます。



左表は、使用した患者さんの効果の割合を示しています。痛みや腫れ、血液検査の炎症(CRP)などでその効果を判定します。効果判定時期は、薬によって異なり(レミケード6週、その他6ヶ月)、調査した患者さんの数も約60~7400人と幅がありますので、お互いを評価、比較するものではありません。

黄緑部分: 一定の基準に達成しなかった割合 (ある程度有効だった者、無効だった者)

薬の適応・副作用

これらの薬剤はこれまでの抗リウマチ薬で十分な効果が得られない方が対象となります。また副作用としては、免疫を抑える薬なので感染症がもっとも注意が必要です。これらの薬によって感染症を起こすのではなく感染に対する抵抗力が抑えられるという意味なので、その発生には一般的な健康管理や清潔に保つこと(日常的な手洗い・うがい・マスク着用など)が重要です。薬の種類によって適応・使用するタイミング・副作用は個人個人で異なりますので、当院の整形外科・リウマチ科外来を受診しご相談ください。

整形外科・リウマチ科 外来医師の紹介



月曜日午前 舟橋医師



火曜日午前 小嶋医師



火曜日午後 石黒医師



木曜日午前 金山医師

新人紹介 土曜日午前 花林雅裕医師

出身地: 岐阜県
趣味: 映画
前任地: 津島市民病院
得意な分野: 外傷(骨折 他)

患者様へ一言:
一般整形外科、リウマチ性疾患に診療、アドバイスさせていただきます。よろしくお願ひします。



“タバコの害(Ⅱ)”

前回に続いての特集で、今回は、タバコによる健康被害について述べるが、わが国には「健康増進法」という法律があることを知っておくことは重要である。この法律は、国民の健康づくりと疾患予防のため、受動喫煙防止にむけ、2003年5月に制定されている。多数の人が利用する施設では、管理者が受動喫煙の防止のための措置を行なうこととしている。疾病を治療する医療機関にとっては、なおさらその責務は重いと考えるべきである。

－ 健康増進法 第5章第2節 受動喫煙の防止 －

第二十五条



学校、体育館、病院、劇場、観覧場、集会場、百貨店、事務所、官公庁施設、飲食店、その他多数のものが利用する施設を管理する者は、これらを利用する者について、受動喫煙(室内、またはこれに準ずる環境において、他人のたばこの煙を吸わされることをいう。)を防止するために必要な措置を講ずるように努めなければならない。

－ タバコの煙 －

紫煙と言われ、安らぎの象徴であったタバコの煙には、ニコチン以外にも、ベンツピレン、ニトロサミンなど有害物質が含まれる。タバコの煙全体で、約4,000種類以上の化学物質、約200種類の有害物質、40～60種類の発ガン物質が含まれるとの報告がある。タバコ煙は粒子相成分(3.3%)とガス相成分(97.5%)に大別されるが、ガス相成分は空気清浄器で除去できない。



－ タバコによる健康被害 －

わが国の死亡原因の第1位は悪性腫瘍(ガン)であり、第2位 心臓病、第3位 脳血管障害、第4位 肺炎である。もちろんタバコは、ガン、心筋梗塞、脳血管障害の三大死因に大いに関与している。前回にも述べたように、喫煙者は自業自得であるが、受動喫煙者はまさに健康被害者であり、子供も受動喫煙者となり深刻な影響を受ける。



イギリスの調査では、喫煙者は平均7～10年生存期間が短くなることが報告されている。当然であるが、喫煙開始年齢が若いほど、喫煙本数が多いほど、肺ガンによる死亡のリスク(危険)は増加することが示されている。

－ 受動喫煙者および喫煙者に対する健康への影響 －

肺ガン、心筋梗塞、脳血管障害、肺気腫などの慢性閉塞性肺疾患が多いが、表の如く、多くの病気をひきおこす。タバコはガンについては肺以外にも喉頭、口腔、膀胱、膵臓などに発生のリスクを高める。

受動喫煙で、肺ガン、心筋梗塞、脳血管障害発生のリスクは、2～8割増加するといわれている。

《タバコの健康への影響》

ガ	ン	肺ガン、白血病(急性骨髄性白血病)、口腔/咽頭ガン、喉頭ガン、食道ガン、胃ガン、膵臓ガン、腎臓ガン、膀胱ガン、子宮頸ガン
循環器疾患		冠動脈疾患、脳卒中、末梢動脈疾患、腹部大動脈瘤
呼吸器疾患		慢性閉塞性肺疾患(COPD)、肺炎、喘息
生殖		低出生体重、妊娠合併症、赴任、乳幼児突然死症候群(SIDS)
その他		手術結果/治癒不良、股関節部骨折、骨粗しょう症、白内障、胃潰瘍(ヘリコバクタピロリ陽性患者における)

—子供への親の喫煙の影響—

子供は胎児のうちから、親の喫煙によるタバコの影響を受けている。家の中で親や家族が喫煙していると、その影響は大きい。

《こどもたちへの受動喫煙の影響》

自然流産 1.1～2.2倍、乳幼児突然死 4.7倍、低体重出生 1.2～1.6倍、むし歯 2倍、肺炎・気管支炎 1.5～2.5倍、気管支喘息 1.5倍、セキ・タン・喘息 1.5倍、中耳炎 1.2～1.6倍、呼吸機能(1秒量)低下、全身麻酔でのトラブル 1.8倍、知能低下(IQ 5%低下)

第11回新生会オープンセミナーのお知らせ

『関節の痛みQ&A』

新生会第一病院 整形外科

医師 花林 雅裕

『家庭でできる運動療法』

新生会第一病院 デイサービスセンター

看護師 村瀬 敦子

日 時：2009年8月29日(土) 午後1時30分～3時30分

場 所：新生会第一病院 集会室

お問合せ先：健康ネットワークいきいき(近藤)

TEL(052)832-8411(代表) こちらにお申込下さい



医療機能評価

新生会第一病院は2000年に、(財)日本医療機能評価機構より、「一般病院A(地域に密着し、住民に身近な医療機関であり、医療機関として二次機能まで対応している病院)」の認定施設として、認定証を交付されています。認定更新は5年毎に行われますので、2010年の更新認定に向け準備を進めています。

新生会第一病院 特定健診と保健指導のご案内

2009年度の特定健診、保健指導が始まっています。外来受付、またはお電話にてご予約ください。

特定健診・健康診査

基本的な健診項目
問診票、身体計測、血液検査、尿検査等
詳細な健診項目
貧血検査、心電図、眼底検査
【生活機能評価】 同時実施
生活機能チェック、生活機能検査 (65歳以上で要支援、要介護の認定を受けていない方を対象)

※料金は「特定健診受診券」をご覧ください
 ※名古屋市の国保及び後期高齢者は無料です
 ※名古屋市のがん検診も併せて実施できます
 ※「受診券」と「保険証」をお持ち下さい

特定保健指導

動機づけ支援	積極的支援
事前質問票 初回面談 (グループ支援80分) (場合によりメール等の支援あり)	事前質問票 初回面談 (グループ支援80分) その後6ヶ月間の継続支援(個別面談・電話、メール等による支援) (運動習慣測定機使用)
6ヶ月後評価(個別面談)	6ヶ月後評価(個別面談)

※医師、管理栄養士、保健師が責任を持って指導します
 ※料金は「特定保健指導利用券」をご覧ください
 ※名古屋市の国保の方は無料です

新生会第一病院

住所 〒467-8633 名古屋市瑞穂区玉水町1-3-2

電話 (052)832-8411 FAX (052)832-8417

ホームページ <http://www.shinseikai.org>

○診療内容○

腎・一般内科、整形外科・リウマチ科、シャント外科、内分泌(甲状腺)糖尿病、総合内科、副甲状腺外来、家庭透析、CAPD、糖尿病栄養外来
 ※当院外来では、予約制を実施しております。(初診の患者様、急変した再診の患者様、又、再診の方でも急に受診日を変更したい場合等は、予約がなくても受けまますので来院ください)

